

新学習指導要領に対応した学習評価 (中学校 保健体育科)

文部科学省

スポーツ庁

政策課教科調査官 関 伸夫，横嶋 剛

1. 学習評価の基本的な考え方
2. 学習評価の進め方（体育分野，保健分野）
3. まとめ

1. 学習評価の基本的な考え方

学習評価の意義

子供たちの学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要

幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） 平成28年12月21日 中央教育審議会

1. 学習評価の基本的な考え方

学習評価の改善の基本的な方向性

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

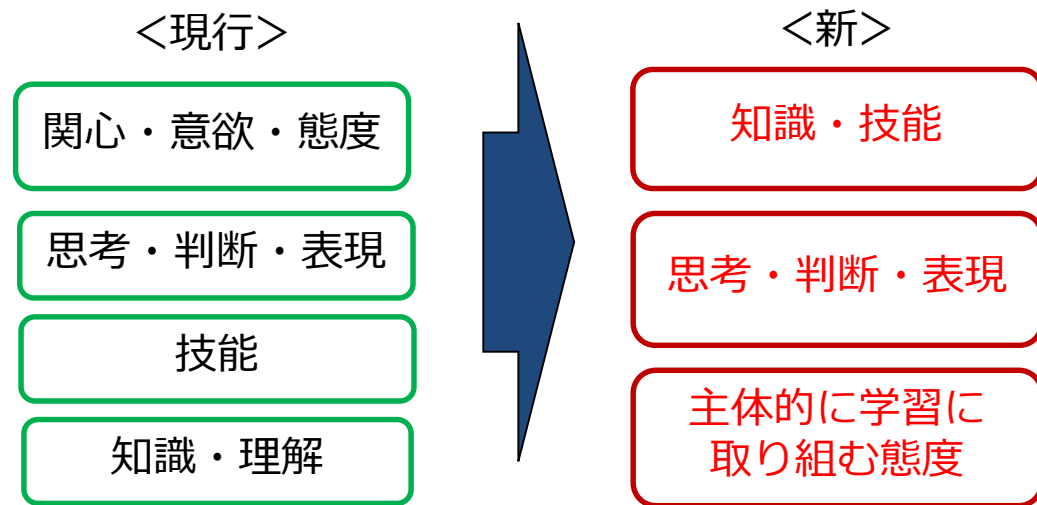
児童生徒の学習評価の在り方について（報告）

平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

1. 学習評価の基本的な考え方

観点別学習状況の評価の観点の整理

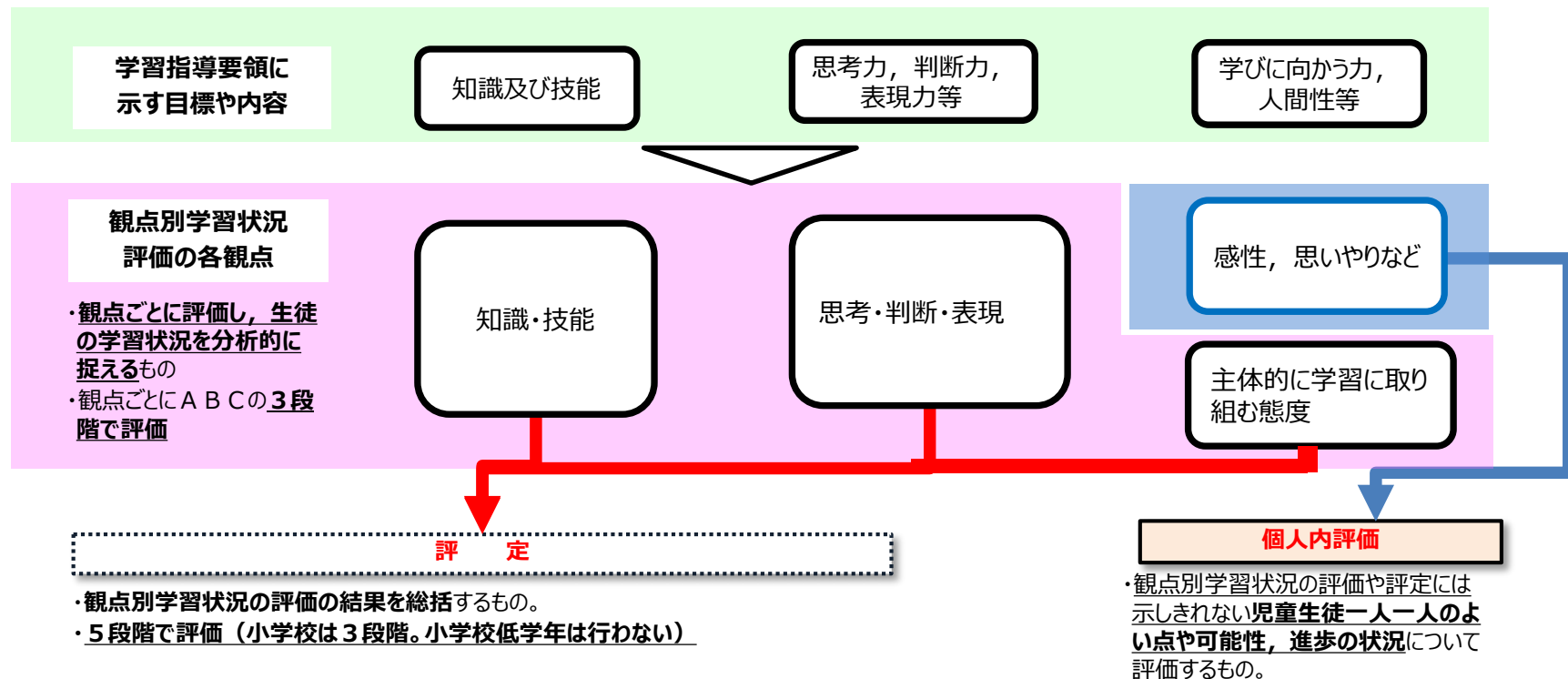
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理。



1. 学習評価の基本的な考え方

評価の基本構造

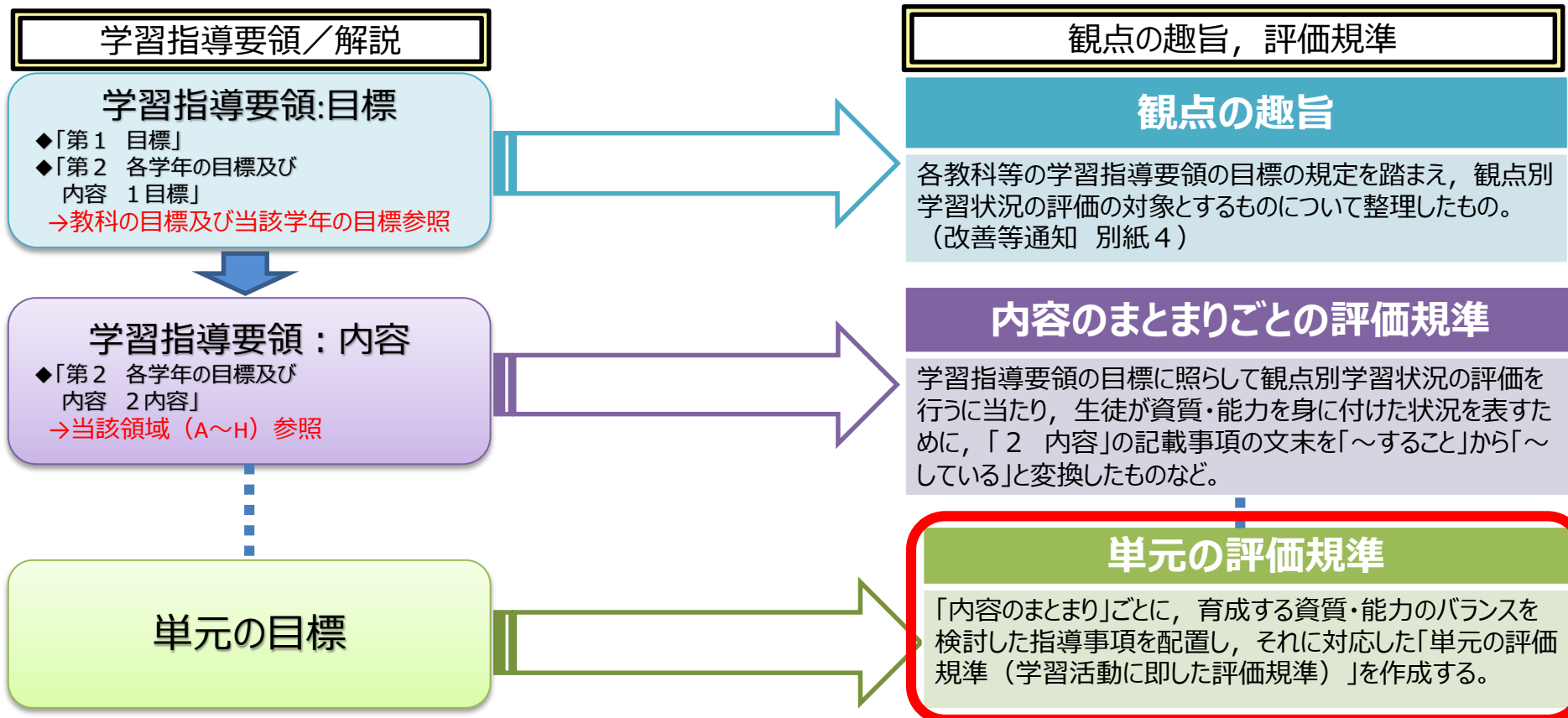
- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



体育分野

2. 学習評価の進め方

「学習指導要領」及び「学習指導要領解説」と「観点の趣旨」及び「評価規準」との関係



2. 学習評価の進め方（体育分野）

指導と評価の計画の作成までの手順

手順1：内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置付け、単元の目標を設定する。



手順2：指導事項をバランスよく配置する。（解説の〈例示〉等を参考）



手順3：内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。
（解説の〈例示〉の文末を変換）



手順4：当該単元における「単元の評価規準」を設定する。
（手順3で作成したものの中から選んだりする。）



手順5：当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。



手順6：指導と評価の計画を作成する。

2. 学習評価の進め方（体育分野）

指導と評価の計画の作成までの手順

手順1：内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置付け、単元の目標を設定する。

年間指導計画の例（中学校第1学年及び第2学年 球技）※①～⑤は球技の単元

【単元目標】の設定
学習指導要領「2 内容」
から当該単元の目標となる
部分を明示する。

学年	時間	4			5			6			7			9			10			11			12			1			2			3						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
第1学年及び第2学年	105	オリエンテーション	理論 [1]	陸上競技 [10] 短距離・リレー(5) ハードル(5)		① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー 選択 2クラス2展開 [10]					水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを 含む2以上選択 [10] * 外部指導者のTTによる協力					武道 (柔道・剣道のいずれかを選択) 2クラス2展開 [14] * 外部指導者のTTIによる協力					器械運動 マット運動(7) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動より 1選択(7) [14]					② 球技・ネット型 バレーボール・テニス 選択 2クラス2展開 [8]					スケート [6]集中							
		（体づくりに関する運動）																																				
		保健(1)健康の成り立ちと疾病の発生要因／生活習慣と健康 [4]																																				
		体づくり運動 (2)																																				
		理論 [1]																																				
		保健 (2)心身の機能の発達 [6]																																				
		保健(2)心の健康 [6]																																				
		陸上競技 [4] 長距離走																																				
		理論 [1]																																				
		体づくり運動 [3] 組み合わせ																																				
	105	体づくり運動 [3]		陸上競技 [8] 跳躍種目選択 走り幅跳び・走り高跳び 2クラス2展開		③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン 選択 2クラス2展開 [10]					水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを 含む2以上選択 [10]					④ 球技・ベースボール型 ソフトボール① ソフトボール② 2クラス2展開 [12]					ダンス 創作ダンス(9) フォークダンス(9) 2クラス2展開 [18] * 外部指導者のTTによる協力					⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]					スキー [6]集中							
		[3]																																				
		理論 [1]																																				
		保健 (1)生活習慣病などの予防／喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 [8]																																				
		体づくり運動 [2]																																				
		理論 [1]																																				
		保健 (3)傷害の防止 [8]																																				
		陸上競技 [4] 長距離走																																				
		理論 [1]																																				
		体づくり運動 [3] 組み合わせ																																				

2. 学習評価の進め方（体育分野）

手順2：指導事項をバランスよく配置する。

①～⑤は2年間にわたる球技の単元

解説の＜例示＞を
参考

「内容のまとめり」に
対して示されている
ことから、意図的・
計画的に配置

	① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]	② 球技・ネット型 バレーボール・テニス選択 2クラス2展開 [8]	③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン選択 2クラス2展開 [10]	④ 球技・ベースボール型 ソフトボール①・ソフトボール② 2クラス2展開 [12]	⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]
知識	1. 球技の特性 2. 成り立ち 3. 技術の名称や行い方 4. 関連して高まる体力	1. 守備者がいない位置でシュート 2. マークされていない味方にパス 3. 得点しやすい空間にいる味方にパス 4. ボールをキープする 5. ボールとゴールが同時に見える場所に立つ 6. ゴール前の空いている場所に動く 7. 相手をマークする	略	略	略
技能 ゴール型	略	略	略	略	略
ネット型	略	略	略	略	略
ベースボール型	略	略	略	略	略
思考力、判断力、表現力等	1. 仲間の課題や出来映えを伝える 2. 課題に応じた練習方法を選ぶ 3. 学習した安全上の留意点を仲間に伝える 4. よい取組を見付け、理由を話して他者に伝える 5. 分担した役割に応じた活動の仕方を見付ける 6. チームへの関わり方を見付ける 7. 仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け仲間に伝える	1. 積極的に取り組もうとする 2. フェアなプレイを守ろうとする 3. 話合いに参加しようとする 4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする 5. 仲間の学習を援助しようとする 6. 健康・安全に留意する	1. 積極的に取り組もうとする 2. フェアなプレイを守ろうとする 3. 話合いに参加しようとする 4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする 5. 仲間の学習を援助しようとする 6. 健康・安全に留意する	1. 積極的に取り組もうとする 2. フェアなプレイを守ろうとする 3. 話合いに参加しようとする 4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする 5. 仲間の学習を援助しようとする 6. 健康・安全に留意する	1. 積極的に取り組もうとする 2. フェアなプレイを守ろうとする 3. 話合いに参加しようとする 4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする 5. 仲間の学習を援助しようとする 6. 健康・安全に留意する

●重点指導機会 ○複数回での指導機会 *評価対象とせず指導する機会

2. 学習評価の進め方（体育分野）

指導と評価の計画の作成までの手順

手順3：内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。
（解説の＜例示＞の文末を変換）

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」あるいは、「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成する。
- ・前者は一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。後者は、学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。
- ・「技能」については、例示の文末を「～ができる」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、例示の文末を「～している」として、評価規準を作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し「～しようとしている」として評価規準を作成する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している」「～を確保している」として、評価規準を作成する。

2. 学習評価の進め方（体育分野）

指導と評価の計画の作成までの手順

手順3：内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。
(解説の＜例示＞の文末を変換)

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u> ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u> ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u> ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u> ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u>	○技能 ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることが<u>できる。</u> ・マークされていない味方にパスをき出すことが<u>できる。</u> ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことが<u>できる。</u> ・パスやドリブルなどでボールをキープすることが<u>できる。</u> ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことが<u>できる。</u> ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことが<u>できる。</u> ・ボールを持っている相手をマークすることが<u>できる。</u> ※ネット型、ベースボール型は省略	・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを<u>伝えている。</u> ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を<u>選んでいる。</u> ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に<u>伝えている。</u> ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に<u>伝えている。</u> ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を<u>見付けている。</u> ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を<u>見付けている。</u> ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に<u>伝えている。</u>	・球技の学習に積極的に<u>取り組もうとしている。</u> ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを<u>守ろうとしている。</u> ・作戦などについての話合いに<u>参加しようとしている。</u> ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを<u>認めようとしている。</u> ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を<u>援助しようとしている。</u> ・健康・安全に留意<u>している。</u>

2. 学習評価の進め方（体育分野）

指導と評価の計画の作成までの手順

手順4：当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

（手順3で作成したものの中から当該単元における指導事項を踏まえ選んだりする。）

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知識 求技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u> ② 求技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u>	① 技能 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること<u>ができる。</u> ② 点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと<u>ができる。</u> ③ ゴールとゴールが同時に見える場所に立つこと<u>ができる。</u>	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを<u>伝えている。</u> ② 応じた活動の仕方を<u>見付けている。</u> ③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏	① 学習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を<u>援助しようとしている。</u> ② 健康・安全に留意<u>している。</u>

2. 学習評価の進め方（体育分野）

手順5：当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。

具体的な
指導内容



単元の評
価規準



知識及び技能		思考力，判断力， 表現力等	学びに向かう力， 人間性等
知識	技能		
ゴール型球技は，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。	ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。	成功例，つまずき例などの事例や，シュート，パス，キープのポイントを提示し，仲間の動きと比較し，伝えること。	仲間の学習を援助することは，自己の能力を高めたり，仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。
↓	↓	↓	↓
①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。

2. 学習評価の進め方（体育分野）

手順6：指導と評価の計画を作成する。

単元の目標	知識及び技能		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、競技の特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 （ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。）										
	思考力、判断力、表現力等		攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 （競技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイをすること）、（作戦などについての機会に参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。										
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント		
学習の流れ	0 オリエンテーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基礎とした学習の充実を図る。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、コート の広さ用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・練習やゲームでは、即時にフィードバックをしようし、合うことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 ・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。	
10	ボール操作	ボール操作	ボール操作の反復練習							ゲームへの修正	最終リーグ戦Ⅰ		
20			空間に走り込むなどの動き	課題の確認と解決の練習			ボール空間に走り込む						
30			ボールとゴール	課題確認			役割、安全を見つける						
40			シュートゲーム	グリッド突破ゲーム	簡易ゲームⅠ								
50	ボール操作	シュートゲーム	グリッド突破ゲーム	簡易ゲームⅠ							人数・コート・ルール等の簡易化		
	整理運動・学習の振り返り・次時の確認										単元のまとめ		
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総括的な評価	学習カード	
	知	①	②	②	②	②	②	②	②	②		観察、記録	学習カード
	技	①	②	③	③	③	③	③	③	③			学習カード、観察
	思	②	①										観察、学習カード
単元の評価規準	知	①競技について、集団対集団、個人対個人で攻防を開展し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書いたりして表現する。										②球技の各型の各項目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。											
	思	②得点しやすい空間にいる味方を指示することができる。											
	思	③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。											
知	①提示された動きのポイントやつまりす事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えられている。										②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。		
技	③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方当着は、チームへの関わり方を見付けている。												
思	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。												
思	②健康・安全に留意している。												

2. 学習評価の進め方（体育分野）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 各教科等の内容については、内容のまとまりごとに、生徒が身に付けることが期待される資質・能力の三つの柱に沿って示すこととしているが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、目標において全体としてまとめて示し、内容のまとまりごとに指導内容を示さないことを基本としている。しかし、**体育分野においては、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、従前より「態度」を内容として示していることから、内容のまとまりごとに「学びに向かう力、人間性等」に対応した指導内容を示すこととした。**
- なお、体育分野においては「学びに向かう力、人間性等」の内容は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた体育学習に関わる態度に対応した、**公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容**を示すこととした。
(中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編）
- 学びに向かう力、人間性等については、**各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。**例えば、体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、**各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。**

(児童生徒の学習評価の在り方について（報告）)

2. 学習評価の進め方（体育分野）

観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっての留意事項

- 指導と評価の一体化の考え方を踏まえると、**体育分野で育成を目指す資質・能力に対応した指導内容をバランスよく指導し評価することが求められる。**
- 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっては、各単元への配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのか等も含め、**観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括についての考え方や方法等を、各学校において十分検討しておく必要がある。**
- ウ シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、**事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要である。**

2. 学習評価の進め方（体育分野）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

掲載事例概要

事例 1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「球技：ゴール型（サッカー）」（第 1 学年）

事例 2 キーワード 「知識・技能」の評価
「器械運動（マット運動）」（第 1 学年）

事例 3 キーワード 「思考・判断・表現」の評価
「武道（柔道）」（第 2 学年）

事例 4 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「ダンス（創作ダンス）」（第 3 学年）

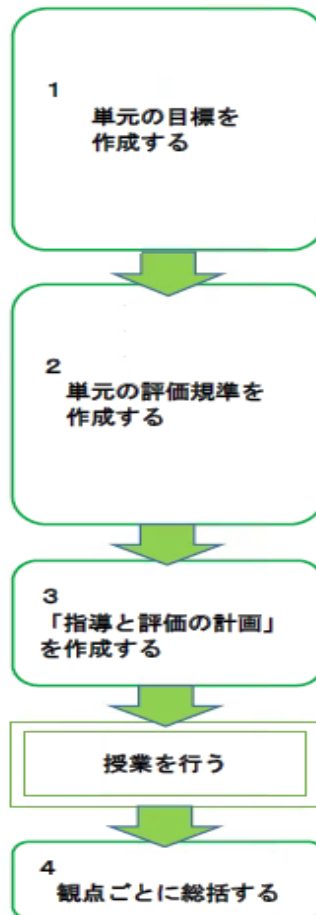
保健分野

2. 学習評価の進め方（保健分野）

評価の進め方

- 単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要。
- 学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、右図のように進めることが考えられる。
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、解説の表記などを用いて学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」作成する。

評価の進め方

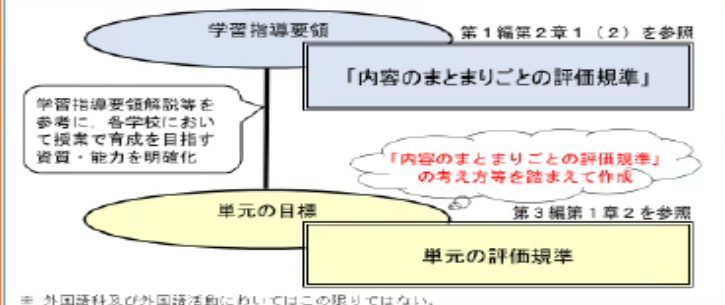


留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价（A, B, C）を行う。

2. 学習評価の進め方（保健分野）

「単元の評価規準」と「学習活動に即した評価規準」

「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、解説の表記などを用いて学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」作成する。これは、これまでの「学習活動に即した評価規準」と同じ性質をもつものといえる。そのため、本事例では、「学習活動に即した評価規準」は別途提示しないこととした。

単元の考え方

「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一まとまりのこと」としている。保健分野では、「内容のまとまり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとまり」をいくつかの「単元」分けて単元設定する場合が想定される。

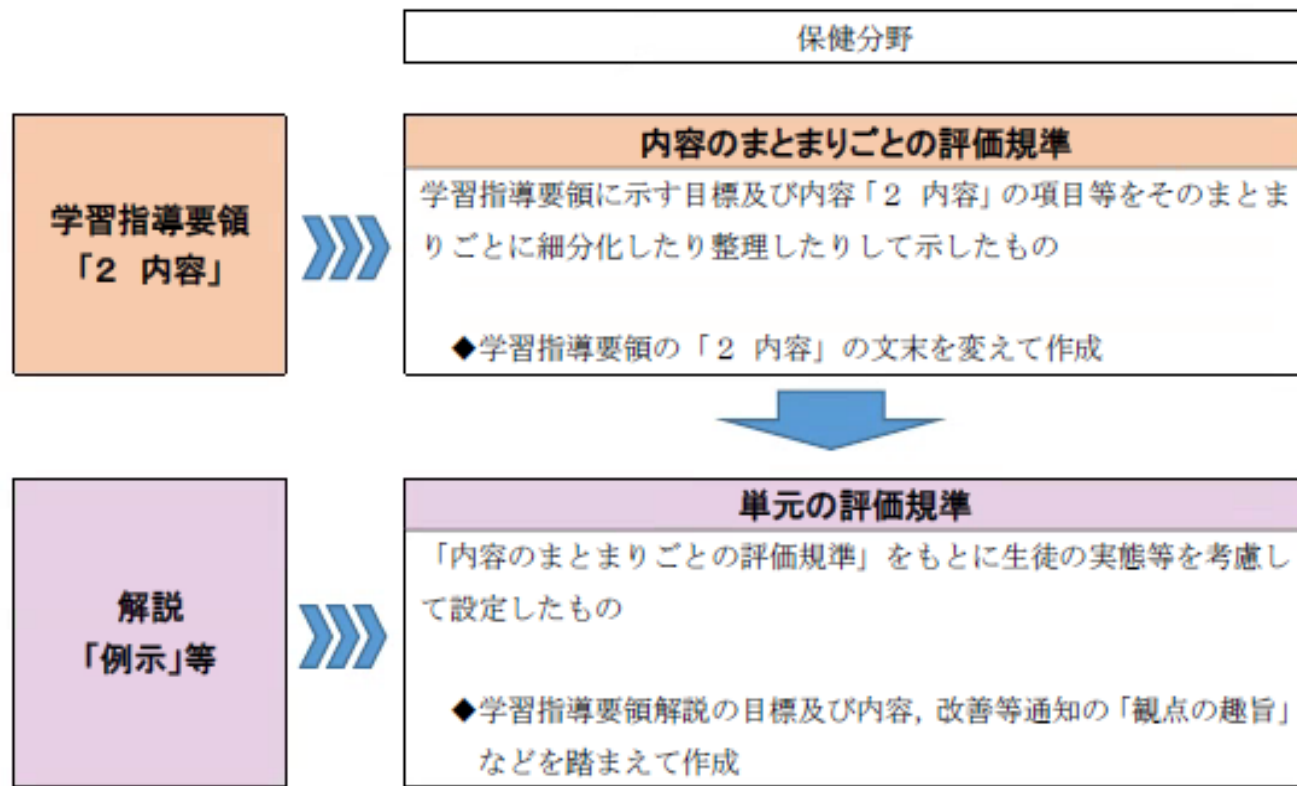
2. 学習評価の進め方（保健分野）

【中学校保健分野の単元設定例】

内容のまとめり	単元例	学年	時数
(1) 健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因 生活習慣と健康	1	4
	生活習慣病などの予防	2	4
	喫煙，飲酒，薬物 乱用と健康	2	4
	感染症の予防	3	4
	健康を守る社会の取組	3	4
(2) 心身の機能の発達と心の健康	心身の機能の発達	1	6
	心の健康	1	6
(3) 傷害の防止	傷害の防止	2	8
(4) 健康と環境	健康と環境	3	8

2. 学習評価の進め方（保健分野）

「内容のまとまりごとの評価規準」、「単元の評価規準」、の関係性を確認する。



学習指導要領と「内容のまとまりごとの評価規準」、解説と「単元の評価規準」との関係性, については, 左図に示したとおりとなる。

2. 学習評価の進め方（保健分野）

単元の目標を設定する

- （１） 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因，交通事故などによる傷害の防止，自然災害による傷害の防止，応急手当の意義と実際について，理解することができるようにするとともに，心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- （２） 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し，自他の危険の予測を基に，危険を回避したり，傷害の悪化を防止したりする方法を考え，適切な方法を選択し，それらを伝え合うことができるようにする。
- （３） 傷害の防止について，自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

・単元の目標の語尾は，「～することができるようにする。」

2. 学習評価の進め方（保健分野）

○「知識・技能」のポイント

「知識」については、解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。

「技能」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、（～が）できる」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、〔例示〕に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせ、文末を「～している」として、作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ、文末を「～しようとしている」として、評価規準を作成する。

単元の評価規準を作成する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となって生じることや、地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の防止には、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ④傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。 ⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。	①傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ②自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。 ③傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	①傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。

「知識・技能」と「思考・判断・表現」は学習指導要領解説保健体育編の内容や例示等を基に作成する。

「主体的に学習に取り組む態度」は評価の観点の趣旨を参考にして、実際の学習活動をイメージして作成した。

・「内容のまとまりごとの評価規準」と指導計画における生徒の活動を考慮し、生徒の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。

・各観点とも細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

2. 学習評価の進め方（保健分野）

指導と評価の計画（8時間）

時	学習内容	知	思	態	評価方法
1	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因	①			観察・ワークシート
2	交通事故などによる傷害の防止	②			観察・ワークシート
3	傷害の防止について、自他の課題発見		①		観察・ワークシート
4	自然災害による傷害の防止		②		観察・ワークシート
5		③			観察・ワークシート
6	応急手当の意義と実際	④			観察・ワークシート
7		⑤			観察・ワークシート
8	単元のまとめ		③	①	観察・ワークシート

2. 学習評価の進め方（保健分野）

○「知識・技能」のポイント

「知識・技能」の評価に当たっては、実習を通して理解を深め、基本的な技能を身に付けている学習状況を確認できるように、ワークシート及び観察による評価を行うことが考えられる。

その際、ワークシートの項目を工夫することが重要である。また、既有の知識及び技能と関連付けたり、活用したりする中で、生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を身に付けているかについても評価できるように工夫することも考えられる。

なお、実習における評価場面では、技能だけでなく、知識と一体的に評価することに留意する。

2. 学習評価の進め方（保健分野）

○「思考・判断・表現」のポイント

授業において一人一人をより多面的に捉え、より妥当な評価を行うためには、観察やワークシート、生徒との対話、ペーパーテストなど、多様な評価方法を工夫し、組み合わせていく必要がある。

○ 観察の視点を明確にすること。

○ ワークシートの項立てを工夫すること。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体を通して総合的に評価することが適切であると考えられる。本事例では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を「はじめ(診断的評価)、なか（形成的評価）、まとめ（総括的評価）」と単元を通して評価することとした。具体的には第1時と第4時に記録に残す場面を設定し、日々の授業で取り組む課題解決学習の状況を評価しつつ、「ワークシート」や「単元学習カード」の記入内容や単元を通じた観察に基づき、第8時の単元のまとめにおいて総括的に評価することとした。

観点別学習状況の総括（評価結果のA B Cの数を基に総括する例）

時 観点		1	2	3	4	5	6	7	8	
		傷害の 発生要因	交通事故などによる 傷害の防止	自然災害による 傷害の防止		応急手当の意義と実際				
評価 機会	知・技	①	②	—	—	③	④	⑤	—	総括
	思・判・表	—	—	①	②	—	—	—	③	
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	①	
生徒 1	知・技	A	B	—	—	A	B	A	—	A
	思・判・表	—	—	B	A	—	—	—	A	A
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	A	A
生徒 2	知・技	B	C	—	—	C	B	C	—	C
	思・判・表	—	—	B	B	—	—	—	C	B
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	B	B

単元の評価規準に照らし、「十分満足できる」状況（A）,「おおむね満足できる」状況（B）,「努力を要する」状況（C）により評価を行い、Aが半数を超える場合にはA、Cが半数を超える場合にはC、それ以外はBとする考え方に立って総括を行う。また、AとCが同一観点到混在する場合は、Bに置き換えて集約する。

観点別学習状況の総括（評価結果のA B Cを数値に置き換えて総括する例）

視点 \ 時		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	総括
生徒1	知・技	3	2	—	—	3	2	3	—	2.60	A
	思・判・表	—	—	2	3	—	—	—	3	2.67	A
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	3	3.00	A
生徒2	知・技	2	1	—	—	1	2	1	—	1.40	C
	思・判・表	—	—	2	2	—	—	—	1	1.67	B
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	2	2.00	B

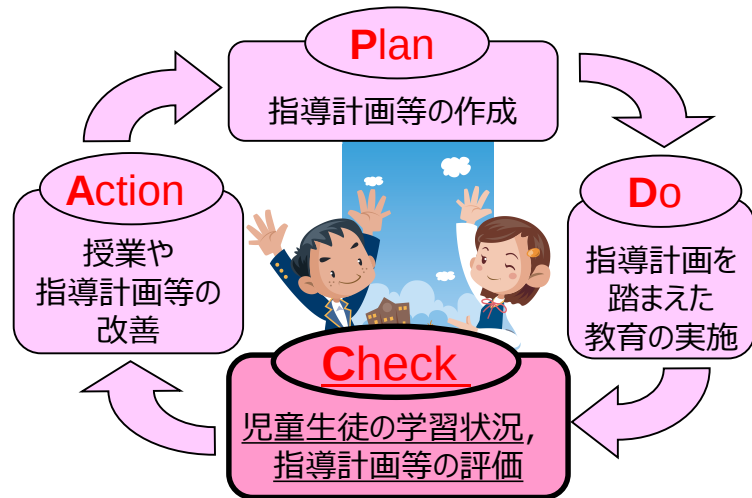
評価結果A, B, Cを, $A = 3$, $B = 2$, $C = 1$ によって表して, 合計したり, 平均したりする総括の方法である。総括の結果をBとする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると, 平均値が2.5を上回る場合はA, 平均値が1.5を下回る場合はCとなる。

3. まとめ

まとめ

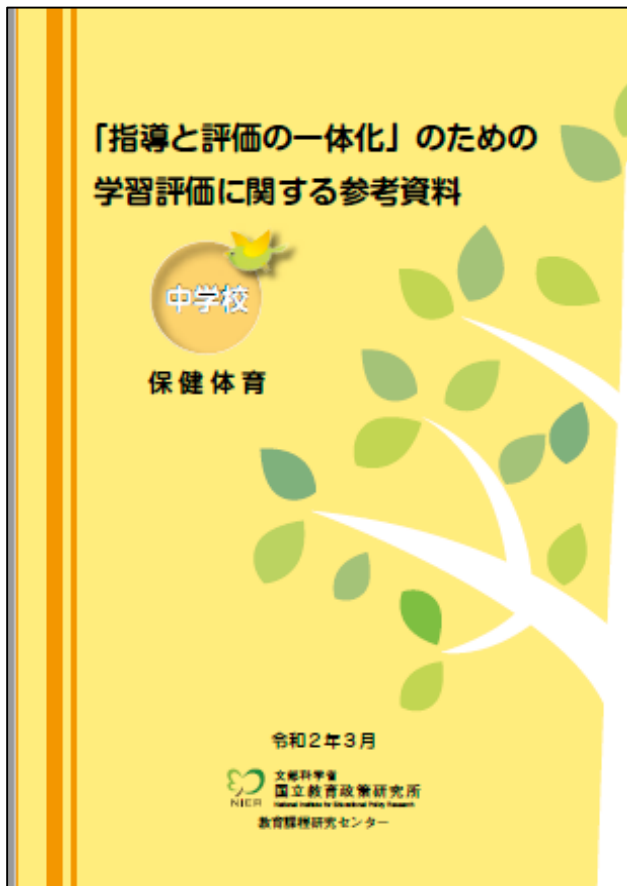
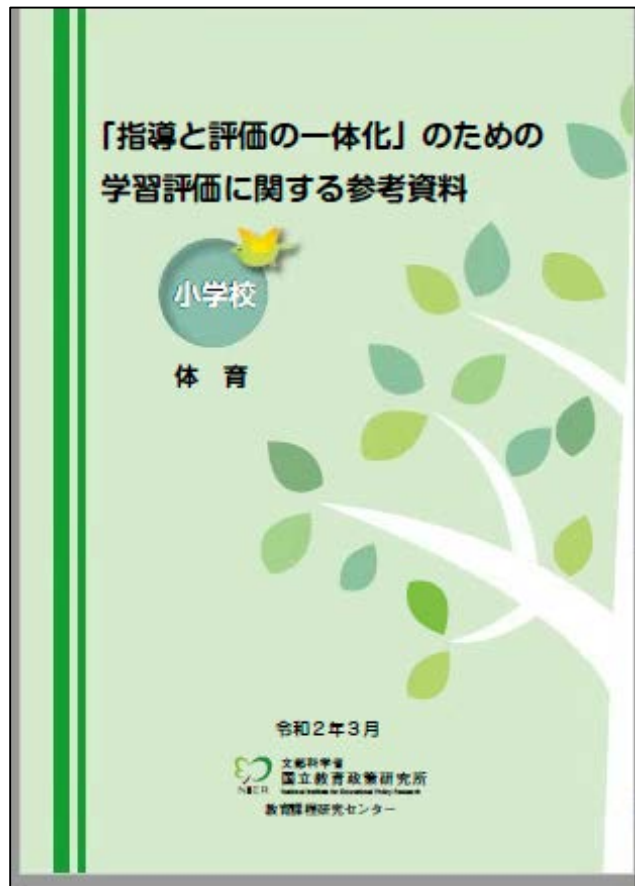
3. まとめ

指導と評価の一体化を図るためには、**生徒一人一人の学習の成立を促すための評価**という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業中での生徒の学びを振り返り学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切。



中教審答申(H28.12.28)補足資料より

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



新学習指導要領に対応した学習評価 (中学校 保健体育科)

文部科学省

スポーツ庁

政策課教科調査官 関 伸夫, 横嶋 剛